

ねん がつ なのか  
2021年8月7日

ねんかんだい しゅじつ  
年間第19主日

きくち いさおだい しきょう  
菊地功大司教 メッセージ

れつおう き よげんしゃ さいし たいじ しょうり のち おうひ うら  
列王記は、預言者エリヤがバアルの祭司たちと対峙し勝利した後、王妃イゼベルから恨  
みを買って、荒野へと逃れていく話を記します。神の道に忠実であり、その義を貫徹  
しようとするのは命がけであることが明示されている一方、精根尽き果てた義の人エ  
リヤを、神は励まし続けたとも記されています。神の与えた使命を果たそうとする人に、神  
は寄り添って励ましてくださいます。

きょうかい てがみ い ちから せいれい さか  
パウロはエフェソの教会への手紙で、わたしたちを生かし力づけてくださる聖霊に逆  
らうことなく、神に倣うものとして、「互いに親切にし、憐れみに心で接し、・・・ゆる  
し合いなさい」と勧めます。神の聖霊に満たされているものは、キリストご自身が愛ゆ  
えにあがないのいけにえとなられたことに倣い、愛によって歩むのだとパウロは指摘し  
ます。

ふくいん せんしゅう つづ しゅ じしん てん ふ  
ヨハネ福音は、先週に続けて、主ご自身が「いのちのパン」であり、「天から降ってき  
た生きたパン」を食べるものは、「永遠に生きる」と宣言された言葉を記しています。

たまもの い つづ かみ あい しゅ じしん みずか じゅうじか あゆ  
賜物であるいのちを生かし続けようとする神の愛は、主ご自身が自ら十字架へと歩ま  
れたその行為のうちに明示されています。わたしたちには、キリストをいただくものと  
して、その神の愛、すなわちすべてのいのちを守り生かそうとする神の愛に応えて生き  
る務めがあります。

まも こうどう へいわ こうどう  
わたしたちにとって、すべてのいのちを守るために行動することは、平和のための行動  
でもあります。パウロが指摘するように、「無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなど」  
は、「一切の悪意」とともに、いのちを大切に作る行動とは対極にあり、すなわち平和  
を破壊する行動につながります。しかし「互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキ  
リストによってあなた方を赦してくださったように、赦し」あうことは、いのちを守る行動  
につながり、平和を築き上げます。

「過去をふり返ることは、将来に対する責任を担うことです」と、教皇ヨハネ・パウロ二世は、1981年に広島で述べられました。

第二次世界大戦が終結してから今に至るまで、戦争の悲惨な現実が繰り返し多くの人によって語り続けられてきたのは、戦争が自然災害のように避けることのできない自然現象なのではなく、まさしく教皇ヨハネ・パウロ二世が広島で指摘されたように、「戦争は人間のしわざ」であるからに他なりません。そして、「人類は、自己破壊という運命のもとにあるものではないからこそ、その悲劇を人間は自らの力で避けることが可能です。

教皇フランシスコは、長崎の爆心地公園で、こう述べられました。

「軍備拡張競争は、貴重な資源の無駄遣いです。本来それは、人々の全人的発展と自然環境の保全に使われるべきものです。今日の世界では、何百万という子どもや家族が、人間以下の生活を強いられています。しかし、武器の製造、改良、維持、商いに財が費やされ、築かれ、日ごと武器は、いっそう破壊的になっています。これらは神に歯向かうテロ行為です」

教会にとって平和とは、戦争がないことだけを意味してはいません。それは神の秩序が確立された状態であり、すべてのいのちが大切にされている共通の家で、だれも排除されることのない社会を実現することです。天上での完成の日を目指して、わたしたちは神が愛をもって創造されたこの世界を、日々、神の望まれる姿へ近づける努力を怠ってはなりません。その使命を果たす努力を続けるわたしたちに、なかなかゴールに到達できずに疲れ切ったわたしたちに、主は常に寄り添い、ともに歩んでくださいます。